

事項	県内のきくに初めて発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス（INSV）及びキク茎えそウイルス（CSNV）の特徴		
ねらい	INSVがきくに、またCSNVがきく及びトマトに発生しているのが本県で初めて確認されたので、その特徴と対策を示し防除対策上の参考に供する。		
指導参考内容	1 発生状況		
		INSV	CSNV
	調査日	平成21年6月4日	平成21年9月18日
	発生地点	県内1地点1農家圃場	県内1地点1農家圃場
	発生品種及び発生割合	「神馬」：1～4.5% (400株調査)	「白風」：100% (50株調査) 「光玉」：61% (100株調査) 「神馬」他1品種でも発生
	病徴	葉の黄化えそ	茎えそ、葉の黄化えそ
	苗の由来	中国産輸入苗	「白風」：他農家からの分譲苗を自家増殖 「光玉」：ブラジル産輸入苗を自家増殖
	その他	同一業者の輸入苗を使用している他農家では発生報告なし	きく栽培ハウス付近の自家用トマトにも発生
	2 特徴		
		INSV	CSNV
媒介昆虫	ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ	
発生作物	きく、トルコギキョウ、シクラメン、シネラリア、インパチエンス、ニューギニアインパチエンス、リンドウ、ロベリア、プリムラ、アネモネ等多数の花き類、トマト、ピーマン	きく、トマト、アスター、トルコギキョウ	
媒介様式	①アザミウマ類による虫媒伝染及び感染母株からの挿し芽等栄養繁殖により感染が広がる。 ②種子伝染、土壌伝染はしない。 ③圃場での汁液伝染の可能性は低い。		
3 防除対策			
	<p>トマト黄化えそウイルス（TSWV）に準じる。</p> <p>(1) 購入苗等によるウイルス或いはアザミウマの持ち込みに注意</p> <p>(2) 発病株の徹底した除去・処分</p> <p>(3) アザミウマ類の徹底した防除</p> <p>(4) 周辺雑草・収穫しない花き等の除去</p>		
期待される効果	INSVおよびCSNVの発生の特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	TSWV、INSV、CSNVのきくにおける症状は酷似しているため、疑わしい症状が発生した場合には、関係機関に診断を依頼する。		
担当部署 (担当者名)	農林総合研究所 病虫部 (近藤 亨、杉山 悟) 野菜研究所 病虫部 (山下一夫)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成21年度 試験成績概要集 (農林総合研究所) 平成21年度 日本植物病理学会東北部会		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 INSVによるきくの黄化えそ症状



写真2 CSNVによるきくの茎えそ症状



写真3 CSNVによるきくの黄化えそ症状



写真4 CSNVによるトマト果実の症状 [中央付近には、ウイルス検定のための針刺しの跡がある]

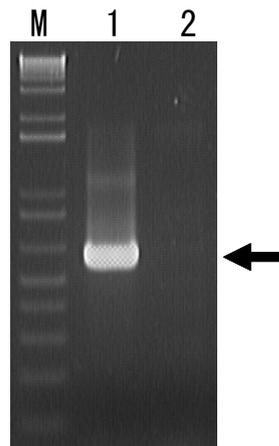


図1 RT-PCRによるINSVの検出
(平成21年 青森農林総研)
(注) レーンM: 分子量マーカー
レーン1: きく葉黄化部
レーン2: きく葉緑色部

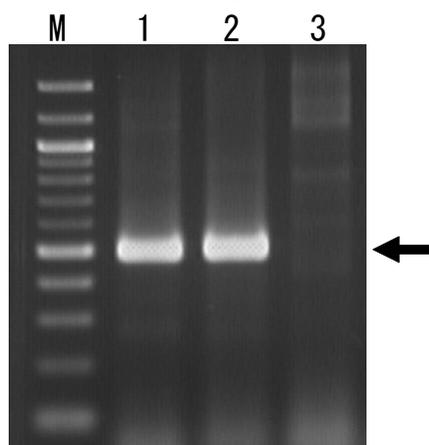


図2 RT-PCRによるCSNVの検出
(平成21年 青森農林総研)
(注) レーンM: 分子量マーカー
レーン1: きく葉黄化部
レーン2: きく茎えそ部
レーン3: きく葉緑色部